

# 横浜国立大学 学術情報リポジトリ

平成19年7月3日

平成18年度CSI委託事業報告交流会

## 1 平成18年度事業概要

1. 学術情報リポジトリの位置づけ
  - ・リポジトリを大学の事業とすることを役員会で決定（平成18年5月）
  - ・学術情報リポジトリ運営委員会の設置（平成18年7月）  
平成18年度は4回の委員会を開催
  - ・学術情報リポジトリ運営指針の制定（平成18年7月）
2. 機関リポジトリシステムの導入
  - ・学内資金によりシステムを導入（平成18年11月）  
ソフトウェア：DSpace、Linux  
ディスク容量：146.8GB×4基（RAID5）
3. コンテンツの収集
  - (1) 学術雑誌論文 …… Web of Science等で調査して著者に依頼
  - (2) 紀要論文 …… NIIから電子化済データを受領
  - (3) 博士論文 …… 平成17・18年度のものを中心に著者に依頼
  - (4) その他 …… 報告書等のメタデータのみを登録
  - ・電子化とメタデータ作成は業者に委託
4. 学内の既存システムとの連携の検討  
教育研究活動データベースの「研究者総覧」からのリンクを検討中。

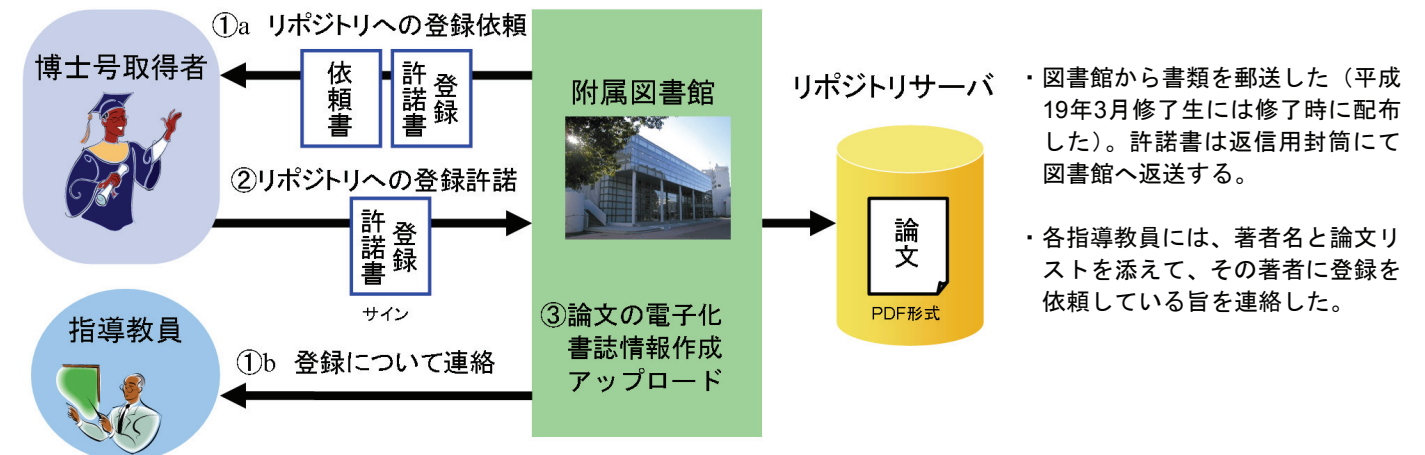
### 5. 広報活動

- ・学内説明会の実施（計5回）
- ・国内ワークショップでの報告（第1～2回DRFワークショップ）
- ・学内広報誌への投稿、学内ウェブサイトとリンク、クリアフォルダ。

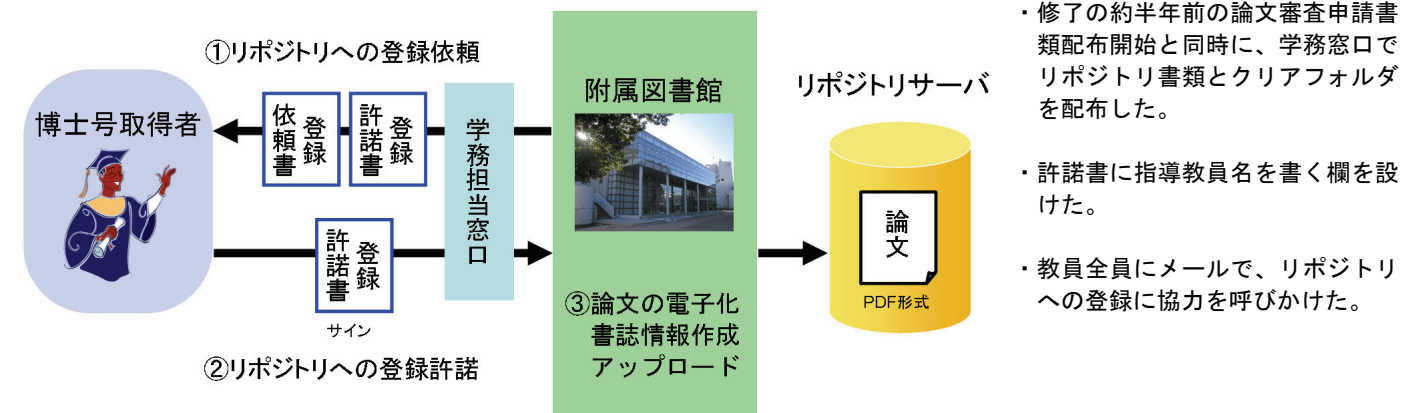
## 2 博士論文の収集

過去の修了生には郵送で登録依頼書と登録許諾書を送付した。今後の修了生については、学務窓口で論文審査申請書類と一緒にリポジトリ書類を受け取り、論文提出と同時に許諾書を提出できるように取り組んでいる。

### 1. すでに修了した平成17～18年度の博士号取得者

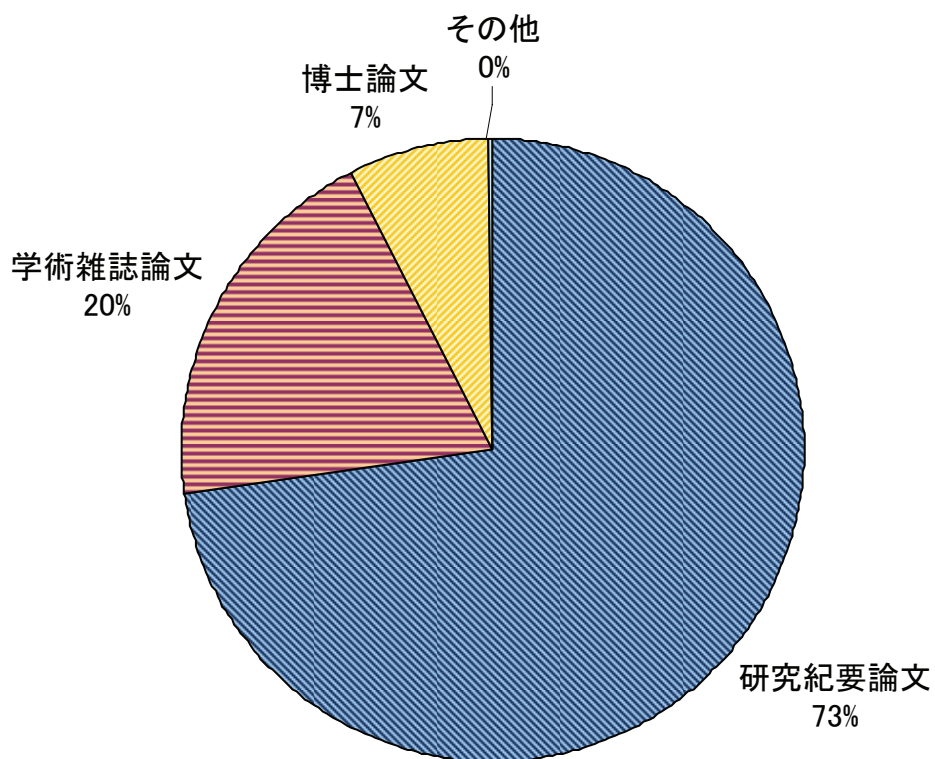


### 2. 平成19年度6月・9月・12月修了生

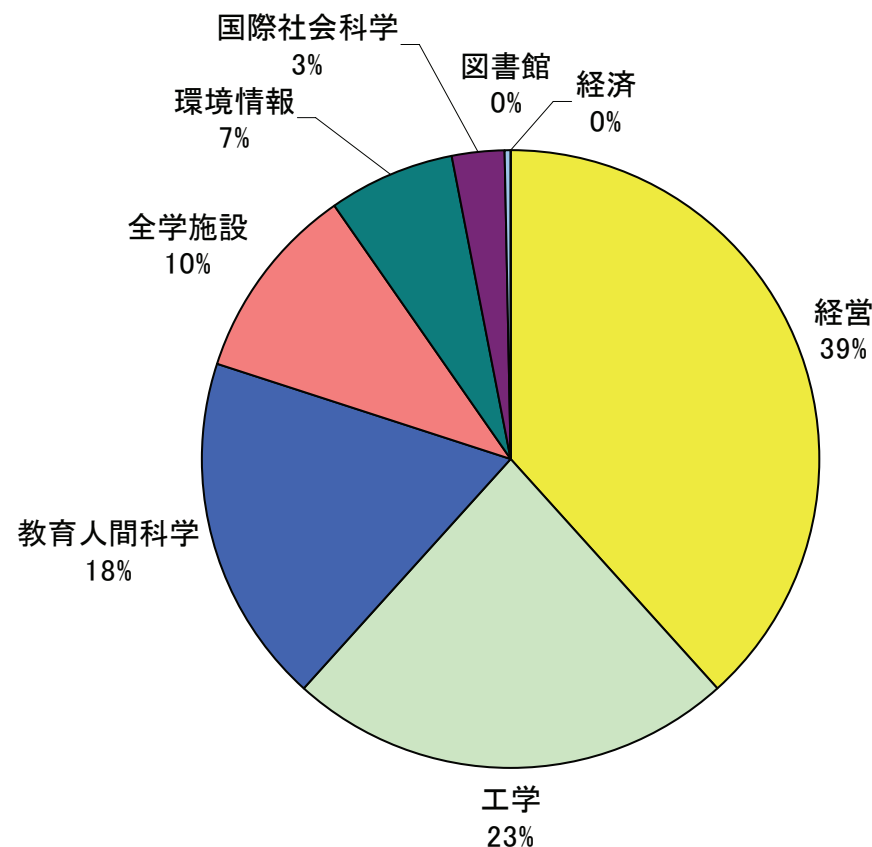


### 3 コンテンツの内訳

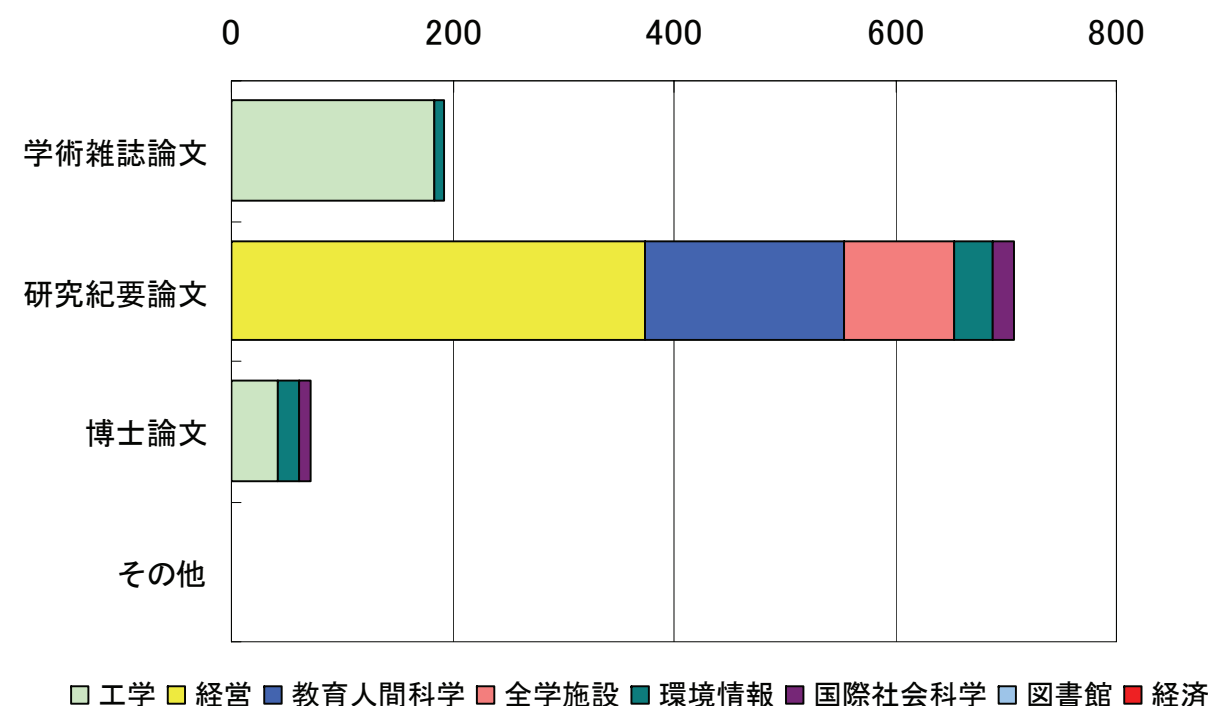
(1) 資源タイプ内訳



(2) 学部・研究科内訳



(3) 資源タイプ別学部・研究科内訳



コンテンツ数内訳 (平成19年6月29日現在の登録済コンテンツ)

学部・研究科	学術雑誌論文	研究紀要論文	博士論文	その他	合計
教育人間科学		179	-		179
経済			-		0
経営		374	-		374
国際社会科学		18	10		28
工学	183		42		225
環境情報	10	35	19		64
全学施設		101	-		101
図書館			-	2	2
合計	193	707	71	2	973

※博士課程は、国際社会科学研究科、工学府、環境情報学府に設置されている。

横浜国立大学学術情報リポジトリのコンテンツを(1)資源タイプから見ると、紀要が73%、学術雑誌論文が20%、博士論文が7%となっている。

受託大学全体では(国立情報学研究所『中間まとめ』7頁、「平成18年度コンテンツ内訳」)、紀要論文が46%、雑誌論文6%、学位論文2%であることから、本学のリポジトリは、紀要が最も多く、学術雑誌論文と学位論文が続くという、現在の日本の機関リポジトリの典型的な例と言える。

(2) 学部・研究科内訳では、経営学部がコンテンツの4割を占めている。これは紀要『横浜経営研究』が1980年創刊から収録されていることによる。

なお、NIIで電子化していない紀要が1誌ある。それは環境情報研究院の『技術マネジメント研究』で、もともとはJ-STAGEで公開していたところ、登録費用のかからないリポジトリへ発表の場を移したものである。現在、第1号から第5号まではリポジトリとJ-STAGEの両方から閲覧することができるが、最新号の第6号をインターネット上で閲覧できるのは横浜国立大学学術情報リポジトリだけである。

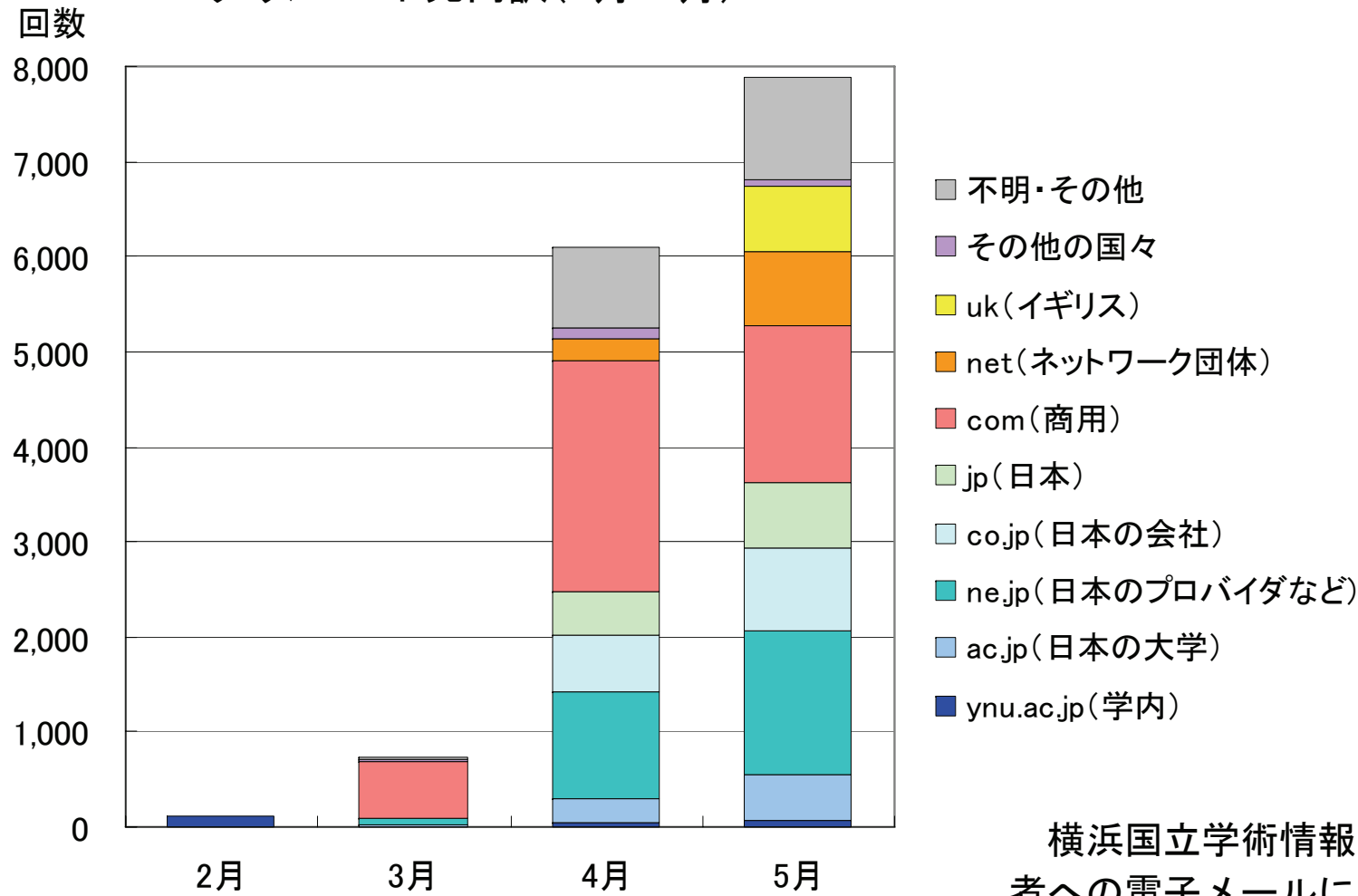
(3) 資源タイプ別学部・研究科内訳に見るように、学術雑誌論文はおおむね理工学分野の論文が占めている。これは、初期コンテンツの収集に際してWeb of Scienceを使って論文を調査したところ、主として英文の理工学系論文が検索されたという事情による。

リポジトリを全学の取り組みとして普及させるためにも、全学から万遍なくコンテンツを収集することが好ましい。今後は、教育研究活動データベース内の研究者総覧の情報などをもとに文系の学術雑誌論文を収集したり、未電子化紀要の電子化に取り組みたい。



# 4 ダウンロード統計

ダウンロード元内訳(2月-5月)



ダウンロード元内訳 (2月-5月)

ダウンロード元のドメイン名	2月	3月	4月	5月
ynu.ac.jp (学内)	115	8	48	68
ac.jp (日本の大学)	0	19	247	480
ne.jp (日本のプロバイダなど)	0	59	1,133	1,512
co.jp (日本の会社)	0	9	598	866
jp (日本)	0	3	444	693
com (商用)	0	593	2,427	1,652
net (ネットワーク団体)	0	6	233	770
uk (イギリス)	0	0	6	687
その他の国々	0	3	113	88
不明・その他	1	25	859	1,061
<b>総計</b>	<b>116</b>	<b>725</b>	<b>6,108</b>	<b>7,877</b>

月末時点での登録論文数	88	506	506	559
1度でもダウンロードされた論文数	88	506	490	559

高頻度ダウンロード文献 上位20 (2007年5月分)

回数 (学内)	資源タイプ	論文名 (一部後略)
628 (3)	博士論文	高密度半導体の実装関連材料の信頼性に関する研究
394 (7)	博士論文	港湾域における有機スズ化合物の環境動態に関する研究
385 (2)	博士論文	神奈川県庁本庁舎と大正・昭和初期の神奈川県営繕技術者に関する建築史的研究
209 (1)	博士論文	非イオン界面活性剤の疎油性の効果とその応用に関する研究
173 (0)	紀要論文	アンネ社の生理革命: 「不浄」から「当たり前」へ
117 (0)	博士論文	Hydrogen gas sensors utilizing a high proton affinity of ...
112 (1)	博士論文	生体関連両親媒性物質およびその誘導体の自己組織化と水溶液物性
109 (0)	博士論文	新規スチリル系熱硬化性低誘電特性樹脂の開発と高周波用実装材料への応用
70 (1)	博士論文	証券化の法と経済学
69 (1)	博士論文	高度化したバス輸送システムの計画手法に関する研究
63 (0)	博士論文	Leptothrix cholodniiの鞘を構成する新規グリコペプチドの構造解析
54 (0)	学術雑誌論文	電子デバイスはんだ接合部の熱疲労強度における解析・実験ハイブリッド...
53 (0)	博士論文	縮合三環式ピラノベンゾピラン骨格を有する液晶化合物の合成と物性に...
52 (0)	学術雑誌論文	実験計画法, 数理計画法を用いた構造最適化
52 (0)	学術雑誌論文	簡易モデルを用いたハニカムサンドウィッチ構造材料の弾塑性解析
48 (2)	博士論文	Soil ecological risk assessment of heavy metal pollution on ...
47 (0)	紀要論文	わが国地方自治体における監査制度のあり方: 公正かつ能率的な行政の...
47 (0)	博士論文	電子デバイス鉛フリーはんだ接合部の疲労信頼性評価に関する研究
46 (0)	学術雑誌論文	高温液体面上の液滴の蒸発: 第2報, 液面上ライデンフロスト膜沸騰の...
46 (0)	博士論文	振動騒音低減化のための構造最適設計に関する研究

横浜国立学術情報リポジトリには、ソフトウェア業者によるDSpaceの拡張サービスとして「投稿者への電子メールによるダウンロード統計通知」、「ウェブ上での高頻度ダウンロード文献ランキング表示」、「ウェブ上での紀要専用ページ」の機能が備え付けられている。

本学ではDSpaceへの論文のアップロードを図書館が代行しているため、ダウンロード統計通知はリポジトリ管理者宛に届く。ここではそのデータをもとに、2月から5月まで、リポジトリの本文がどこからダウンロードされたのかをまとめた。

リポジトリを試験公開した3月22日以降、リポジトリへのアクセスは急速に増加した。ドメイン名でいうと、ne.jp (日本のプロバイダ) やcom (商用) ドメインが大幅な伸びを見せている。国別では5月のイギリス687回が目を引くが、コンテンツはほとんど英語か日本語のため、英語圏からのアクセスになじむものと思われる。

一方、学内からのダウンロードは全体の1%に満たない。学内向け広報活動にもっと力を入れる必要があるのは確かだが、或いはリポジトリの性質として、もともと学外からの需要の方が高いのかも知れない。

ダウンロードされた文献の上位20 (5月分) には、博士論文が14件ある。従来は大学図書館か国立国会図書館でしか閲覧できなかったものなので、インターネット公開は意義ある事業と言えよう。

なお、少なくとも一度はダウンロードされた論文数が登録論文数と一致していることから、一度もダウンロードされなかった論文は無いことが確かめられた。